

# 中学生海外派遣事業

オレゴン州セーラム市



## 異国の地へ

高田 茉優さん

私にとって初めての海外。飛行機の中から英語での会話が始まりました。思っていた以上に伝わりにくい英語。とても不安だったけれど、会話やテレビを聞き流していると、何となく意味が分かるようになって、口から自然にあいさつなどが出てくるようになりました。一番驚いたのは、気候です。涼しいと聞いていましたが、寒いくらいで想像以上でした。最初は不安だったけれど、帰るころにはとても居心地のいい場所になっていました。この研修に参加できてよかったです。



オレゴン州  
セーラム市

8月18日から8月28日までの11日間、中学2・3年生16人が、アメリカ合衆国オレゴン州セーラム市を中心とした周辺地域に海外派遣されました。

言葉はもちろん、文化や生活環境といったあらゆる面で日本とは異なる海外での生活。ホームステイや施設見学、英語研修、野外体験などを通じて、たくさんの方のことを学び、感じて伊予市に帰ってきました。



## 英会話レッスン

最初は緊張したけれど、スーザン先生の分かりやすく、楽しい授業で緊張もなくなりました。クロックセーターやギルバートディスカバリビレッジなどの施設を探索し、質問に答えました。高校生と一緒にジェスチャーをしながら会話をしたのがとても面白く、話を通じた時はうれしかったです。物語をつくるテーマも難しかったです。出来上がった時は達成感でいっぱいでした。いい体験ができたことに感謝しています。

三浦 詩乃さん

授業は分かりやすく変化に富んだ内容でした。現地の高校生と一緒にいろんな問題に挑戦したり、写真を見て物語を創作したり、ビンゴゲームで遊んだりして、授業を通じて仲良くなり、楽しく交流することができました。英語での表現は難しく感じましたが、物語の発表を成功させることができた時は本当にうれしかったです。ますます英語への関心が高まり、理解を深めることができました。

西山 あゆ美さん



## 野外キャンプを体験して

富士 優里華さん

ハイキングで山道11kmを歩きました。見える景色は、滝や森などまるで日本と同じもので、とても懐かしく感じました。途中6kmくらいは登りや下りを繰り返す厳しい道のりでしたが、昼食を食べた川のほとりはとてもきれいで、サンドウィッチやポテトチップスはとてもおいしかったです。ほぼ半日歩き続けて疲れたけれど、とても楽しかったです。

## セーラム市内を見学

橋上 修太さん

セーラム市内は車が多く、松山市の3倍くらいありました。6車線あって、信号の形が違うのに驚きました。初めて横断歩道を渡った時、青信号からすぐに点滅信号に変わったので慌てて渡りました。市内は緑が多く、公園の芝生広場で鬼ごっこをしたときは、柔らかい芝生や風がとても気持ちよかったです。ショッピングモールは、迷路のようになっていて迷ったけれど、友達に会って無事に出口に行くことができました。

## 博物館や大学、州議会を見学して感じたこと

上田 敏貴さん

ミシヨン・ミル・ミュージアムは毛織物の工場を改装したもので、オレゴン州の農作業を体験することができます。公園も広く広大なアメリカを知ることができました。ウィラメット大学は、西海岸最古の歴史をもつ大学で、隣には東京国際大学があります。ここで英語レッスンを受けてきました。将来、この大学に行ってみたいなと思いました。

## 食文化の違い

幸 大志さん

食べ物で一番心に残っているのはとても大きいということです。昼食は、ほとんどがサンドウィッチかホットドック。口を大きく開けてギリギリ入るくらいで、食べるのにとっても時間がかかりました。また、米や魚料理が少なく、夕食は肉料理が多かったです。肉の塊を焼いて、野菜と一緒に煮込み、お皿にその塊が出てきた時は大きさに驚きました。食文化の違いを実際に経験できてよい勉強になりました。海外派遣に参加できたことを感謝しています。



ホストファミリーとの別れ

僕が話す英語をいつも優しく聞いてくれました。メジャーリーグを観ながら日本の野球の話をしたり、夕食後に、ラズベリーやブルーベリーを収穫したり、一緒に散歩したりしました。慣れてきたころに別れの時は来ました。家を出る時、手作りのプレゼントをもらいました。バスに乗る前にハグをした時、別れを感じてとても寂しかったです。見えなくなるまで手を振ってくれました。勉強して英語を話せるようになって再会できるように頑張ります。

源浩輔さん

7日間のホームステイ

「日本に帰りたくない。」と思ってしまふほどホストファミリーの方々と家族のように過ごすことができました。2つのホストファミリーどちらも笑顔で迎えてくれました。生地から作ったパスタをご馳走になったり、UNOゲームで遊び、負けると罰ゲームがあったりして楽しかったです。また、買い物やテニス、バーベキューなどを体験しました。どちらも異国という不安を全く感じずに楽しむことができました。本当にありがとうございました。

村上朋花さん



シアトルマリナーズ野球観戦

一木和希さん

僕は野球部なので野球が大好きで、イチローのプレーを見ることは夢のようなことでした。イチローがヒットを打った時はすごく興奮し、周りの友達と野球の話で盛り上がりました。観客もとても熱狂的でした。逆境に立ち向かっていきたいです。そして、もう一度セーフコフィールドに来れるよう頑張りたいです。

マイナーリーグ野球観戦

大塚倫汰郎さん

球場の名前は「セーラム・カイザー・ボルケーノ・スタジアム」。セーラムはセム語、カイザーはドイツ語、ボルケーノは英語です。アメリカが多くの地域からの移民でつくられたことを実感しました。アメリカの野球にはメジャーリーグとマイナーリーグがあり、マイナーリーグの中でも3つに分けられていることを知りました。



訪問団主催レセプションに参加して

中川卓馬さん

いろいろな思いが込み上げてきた中で一番感じたことは感謝の気持ちです。海外派遣事業関係者、ホストファミリー、英語授業をしてくださった高校生など、さまざまな方々に感謝するつもりで臨みました。一番に残ったのは、みんなで歌った「ふるさと」です。一回も練習しなかったけれど、心が一つになって元気に歌えました。この経験は生涯忘れることのできないもので、いつか誰かにお返しできる人になりたいです。

お別れの日、とても悲しく、ここに残りたい、この家族と一緒にいたい、そんな気持ちでした。初めは不安だったけれど、パパとママは優しくゆっくり話し、緊張をほぐしてくれました。何よりもうれしかったのは、僕を「日本の中学生」でなく「自分の子ども」として本当の家族のように接してくれたことです。アメリカにもう一つの家族ができたようで、パパとママに感謝です。これからも連絡を取り、僕の成長を知ってもらいたいです。もう一度訪れたいです。

隅田幹也さん



伊予市に到着

二宮智穂さん

とうとう日本に帰ってきました。飛行機やバスに乗っていた時間が長かったため、オレゴン州セーラム市にいたのが遠い昔のように感じました。ホストファミリーとの別れはつらかったけれど、家族との会話で「日本に帰ったんだな」と実感し、安心しました。家に帰って一番最初に食べたのは、ご飯とお味噌汁。久しぶりに食べた日本食はとてもおいしかったです。初めての体験ばかりでしたが、とても良い経験になりました。本当にありがとうございました。